

Rd1. SUGO

<<JSB1000>>

清成選手が新チームの初陣を 2 位で飾る！

2010 年までケーヒンがサポートしていたレジェンドライダー伊藤真一が 10 年ぶりにケーヒンとタッグを組み、監督として戻ってきた。

2020 年 1 月に Keihin Honda Dream SI Racing を立ち上げ、監督として全日本ロードレース選手権での新たなチャレンジが始まった。そのスタートは新型コロナウイルス感染拡大の影響でシーズン開幕の延期や大会中止が相次ぐ厳しい船出となったが、約 4 ヶ月遅れとなる 8 月 9 日（日）、10 日（月）にスポーツランド SUGO で開幕戦を迎えた。

●8 月 9 日（日）

予選 Result 天候：雨 | 気温：25℃ | 路面状態：ウェット

◆清成龍一 選手 R1 4 位 / R2 3 位

◆渡辺一馬 選手 R1 8 位 / R2 8 位

10 時 30 分、雨のなか JSB1000 クラスの公式予選が開始された。ここ SUGO での JSB1000 クラスは決勝がレース 1、レース 2 と行われる 2 レース制のため、予選 40 分間のなかで記録したベストタイムがレース 1、セカンドタイムがレース 2 のスターティンググリッドとなる。

清成選手はベストタイム 1'37.489 でレース 1 を 4 番手、セカンドタイム 1'37.490 でレース 2 を 3 番手、渡辺選手はベストタイム 1'39.794、セカンドタイム 1'39.874 でレース 1、2 ともに 8 番手スタートとなった。

決勝レース 1 Result 周回数：25 | 天候：曇り | 気温：25℃ | 路面状態：ウェット

◆清成龍一 選手 2 位

◆渡辺一馬 選手 リタイア

午前中に行われた公式予選の結果を受けて争われる決勝レース 1、予選中に降り続いた雨は上がりかけていたものの路面は乾かず、ウェットコンディションのままスタートをむかえた。

4 番グリッドからスタートした清成選手は 1 周目に 3 番手となり、前の YAMAHA 2 台を追いかける展開となった。2 周目、トップ争いのなかで中須賀選手(YAMAHA FACTORY RACING TEAM)が転倒、清成選手は 2 位に浮上するが、その背後には同じ CBR1000RR-R を駆る水野選手(MuSASHi RT HARC-PRO.Honda)が迫る。10 周目、1 コーナーではらんでしまった清成選手は水野選手に抜かれ 3 位に後退してしまう。難しいウェットコンディションにより各所で転倒者が続出するレース展開となるなか 15 周目には水野選手が転倒し、ふたたび清成選手は 2 位に浮上する。その後も冷静に走り続けた清成選手は 2 位を守り抜き、新チームでの初陣を表彰台で飾った。

一方、8 番グリッドからのスタートとなった渡辺一馬選手は着実にレースを進め一時 3 位を走行するも、15 周目に転倒リタイアという悔しい結果となった。

●8 月 10 日（月）

決勝レース 2 Result 周回数：24 | 天候：晴れ | 気温：34℃ | 路面状態：ドライ

◆清成龍一 選手 4 位

◆渡辺一馬 選手 7 位

前日までとは打って変わって快晴となり、夏らしい強い日差しのもとで決勝レース 2 が行われた。

前日の決勝レース1での転倒により予選2番手の中須賀選手が欠場となったため、清成選手は2番グリッド、渡辺一馬選手は7番グリッドからスタートすることとなった。スタート前のウォームアップラップでコース上にオイルが確認され、その処理のためにマシンは一旦ピットに戻された。これにより決勝レース2は1周減の24周となった。

2番グリッドからスタートした清成選手が、みごとホールショットを決め1位、渡辺一馬選手は5位へと順位を上げて1周目を終える。背後に迫る野左根選手(YAMAHA FACTORY RACING TEAM)、渡辺一樹選手(YOSHIMURA SUZUKI MOTUL RACING)の3台のトップ争いで突入した2周目、馬の背コーナーで清成選手と野左根選手が接触、清成選手は渡辺一樹選手にも抜かれ3位に後退してしまった。清成選手、渡辺一樹選手とそこに追いついてきた水野選手の3台が2位争いを展開、その後ろでは渡辺一馬選手と濱原選手(Honda Dream RT 桜井ホンダ)、亀井選手(Honda Suzuka Racing Team)とのCBR1000RR-R同士による5位争いが展開された。清成選手は2周目からリアブレーキにトラブルを抱え、渡辺一馬選手はレース1の転倒で身体にダメージを負っているという状況にありながら、Keihin Honda Dream SI Racingの両ライダーは酷暑のレースを走りぬぎ、4位、7位という結果でレース2を終えた。

●Comments

◆伊藤真一 監督

まずは皆さんのサポートのおかげで、開幕戦を迎えることができたことに深く感謝いたします。まだマシンのトップには追いついていないことを示す戦いになり、より一層の努力をして行かなければならないと実感しています。

レース1では清成選手が2位となり表彰台を獲得してくれたことを嬉しく思っています。清成選手のライダーとしてのパフォーマンスに頼った結果だと受け止めています。転倒してしまい残念ですが、渡辺選手も一時3位まで上がったので表彰台へ届く力があることを示してくれました。

レース2では清成選手は2周目にリアブレーキが破損し、とても厳しい状況のなかでも最後まで走り切ってくれました。トラブルがなければ、もっと上位でゴールできたと思いますし、サポートしきれなかったことを申し訳なく思っています。渡辺選手はレース1での転倒の影響で思うように身体が動かず、満足なライディングができないなか、粘り強く走ってくれました。

最後まで走り切ってくれたことで、ウィークポイントがはっきりしました。それを克服できるように、これまで以上にしっかり監督として努力したいと思っています。

たくさんの皆さんから応援いただいたおかげでライダーの士気が上がりましたし、チーム全員があらためて身を引き締めることができました。次戦の岡山では、さらに上を目指します。

◆清成龍一 選手

レースに出る以上、目指すのは優勝ですが、レース1の2位はホッとしました。チームに表彰台に上がる姿を見せることができ一安心しているというのが正直な気持ちです。

スタートから絶対に攻めて行こうと決めていましたが中須賀選手をなかなか抜くことができませんでした。しかし、ここでスイッチを入れたらリスクを冒してしまうと思い、自分の気持ちを抑えました。トップ争いを目指していたのに、中須賀選手が転倒して野左根選手が逃げて行くのを見ているしかできないことがもどかしかったです。路面状況が変わって行く難しいレースでしたが、決勝を走り切り、しっかりとデータを残し、次につなげるのも大事な仕事だと言い聞かせながら走り切りました。

レース2はスタートが決まりトップに出ることができましたが、2周目にリアブレーキが使えなくなってしまう、辛いレースになりました。SUGOはリアブレーキが重要なコースなので、思うようなライディングができず、我慢のレースになりました。

今回のレースでライバルとの差を実感することになりました。新型マシンのセットアップが手探り状態のなかで、伊藤監督を筆頭にチームスタッフの皆さんに自分のわがままを聞いていただき、走りやすいように最大限の努力をしてもらっています。短いシーズンですが、一步一步前進し、勝つという目標にチーム一丸となって挑めていることに大きなやりがいを感じています。勝利に向けて最大限の努力をしたいと思います。たくさんの応援をありがとうございました。

◆渡辺一馬 選手

予選ではタイムを目指すことよりも、アベレージペースを考えて、前日のテスト走行からの改善点などを確認しました。

レース1はペースも悪くなく3番手に上がることができ、このポジションをキープしようとしていました。雨が降ったり止んだりの難しい路面状況だったので、慎重に走っていましたが、無理をしていたわけでも、攻めていたわけでもなく、同じ感覚で前の周と同じようにSPインコーナーに差しかかったところで、突然転倒してしまいました。今も原因がわからず、納得できないままです。せっかく、清成選手と表彰台に上がるチャンスだったのに、それをつぶしてしまったと思うと、チームに申し訳ない気持ちです。

レース2はレース1での転倒のダメージの影響で、朝のウォームアップ走行でも、身体に違和感がありましたが、欠場は一切考えていませんでした。どんな状況でも、レースに出て最善を尽くそうと常に考え、終盤にはかなり身体がきつい状況でしたが、なんとか走り切ることができました。

次戦の岡山に向けて、体調をしっかりと整え、トップ争いができるように準備して最高の結果を引き寄せたいと思います。

Rd1. SUGO

<<ST1000>>

最速タイムでトップに迫るも悔しいリタイア

2020年シーズンから新設されたST1000クラスは最新のリッタースーパースポーツバイクによって争われるクラスで、JSB1000クラスよりも改造範囲が狭く、より市販車に近い車両で争われる。また、タイヤはダンロップのワンメイク制度が導入されている。有名ライダーも多くエントリーシートに名を連ねる同クラスに Keihin Honda Dream SI Racing からは作本輝介選手が参戦した。

●8月9日(日)

予選 Result 天候：雨 | 気温：25°C | 路面状態：ウェット

◆作本輝介 選手 6位

11時25分、35分間の公式予選が開始された。

朝から雨が降り続きでウェットコンディションのなか、作本選手は6番手となる1'40.848を記録し、翌日の決勝を2列目からスタートすることとなった。

●8月10日(月)

決勝 Result 周回数：13 | 天候：晴れ | 気温：34°C | 路面状態：ドライ

◆作本輝介 選手 リタイア

予選日の雨模様から一転、晴れて厳しい暑さとなり、ST1000クラス初決戦の火ぶたが切って落とされた。

素晴らしいスタートを決めた作本選手は1周目で3番手に浮上した。そのままの勢いでトップ争いをしている高橋選手(日本郵便 Honda Dream TP)と 星野選手(TONE RT SYNCEDGE4413 BMW)に追いつき、接戦となっ

た。8周目の馬の背コーナーで、作本選手は星野選手をかわし2位にあがるとともに1'30.060のタイムをたたき出し、コースレコードを更新。しかしトップを走る高橋選手を猛追している最中の9周目に馬の背コーナーで汚れた路面に足元をすくわれ転倒し、リタイアでレースを終えることとなった。

●Comments

◆伊藤真一 監督

ベストラップを記録してトップに迫りながらの転倒という結果でした。チェッカーを受けられなかったことは反省してもらわなければなりません。決勝レースで本来の速さを発揮してくれたことは見込んだ通りのポテンシャルを示してくれたと前向きにとらえたいと思っています。

◆作本輝介 選手

予選では思うようにタイムアップすることができませんでしたが、最低限と思っていた2列目に並ぶことができました。

決勝日は晴れましたが、ドライの走行ができていなかったため、朝のウォームアップランでは、決勝に向けて優勝だけを考えマシンのセッティングをアジャストして挑みました。トップに追いついて仕掛けられると思い、これからというところでしたが、路面の汚れている部分に乗ってしまい足元をすくわれてしまいました。

次戦の岡山では、今回のレースでつかんだマシンやタイヤのフィーリングを活かして、トップ争いをしていきたいと思っています。